



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：米国との交渉を拒絶するタリバン声明

(6日付 AIP 通信)

1. 過去数年間、毎月のようにイスラム首長国との交渉が行われているとの噂が、西側メディアによって報じられることが日常的になっている。彼らは、タリバンに対して対話に応じるよう圧力をかけていると述べている。イスラム首長国がこれらの噂を拒絶すれば、彼らはメディアを混乱させるために、イスラム首長国指導者層との交渉と接触が行われていると主張する。こうした主張が誤りであることが証明された際には、新しい名前と形式を持ち出してくる。
2. イスラム首長国は、自国民がムジャーヒディーンに拘束された国々と、囚人交換のために接触を有している。例えば、2007年にはイスラム首長国の囚人となった21名の韓国人に関する交渉が成功した。同様に、ムジャーヒディーンに拘束されていた仏国人のため、頻繁に対話が行われた。仏国人2名は、相手側がイスラム首長国の要求を受け入れたことから、最近解放された。さらに、我々の拘束下にあるカナダ人、米国人、その他の人々に関する直接的、間接的接触が存在する。
3. 米国との交渉に関する噂は、囚人交換を目的とした対話以上のものではない。幾つかの集団は、これらの接触を現在の紛争に関する包括的な対話であると読んでいる。しかし、これらは彼らの不公平な見方を示しており、また現状に対する認識の欠如を示している。囚人解放に関して、我々と接触している人々が、その接触を、米国からさらなる見返りを得るために公式な交渉という名を与えているかもしれない。米国人は、アフガニスタンにおける戦争に疲弊しており、敗北しつつある。彼らは交渉の開始という名目で私腹を肥やしている。
4. 我々は、外国軍が駐留する状況での交渉を、米国の策略であり無駄な努力であると考え、米国は問題解決の基本である占領を終える用意もない。・・・外国人兵士でさえ、我々の土地にとどまれば、それは占領を意味する。アフガニスタン人は占領を受け入れることはない。
5. 我々は中立的なメディアが、米 CIA や諜報機関に用意されたこうした噂や宣伝を報じないよう希望する。